

中高一貫教育だより

～広尾の子どもは広尾で育てる～

第59号

令和3年
7月発行

発行者
広尾町中高一貫教育推進委員会

生徒一人一人を大切に

北海道広尾高等学校長 小島 政裕

昨年度、本校に着任し、広尾町中高一貫教育連絡協議会会長として本会の活動を見てきました。コロナ禍で活動が制限される中、5月の中高合同部会に始まり、約2か月に1回の事務局会議と推進会議、年に2回の連絡協議会。各分掌の連携による中高合同清掃等の活動や、各教科によるSCC（中高一貫校相互乗り入れ授業）等が行われています。全道の中高一貫教育導入・設置校は、中等教育学校2校、連携型8地域となっていますが、広尾町の取組は計画的でしっかりとした連携がとれていることに感心しました。前記の「中高合同清掃」を始め、「中高生徒会交流会」や「部活動交流」、高校生活について中学生に説明する「中高語り場」や高校3年生がどのように進路実現を果たしたのかを話す「中高一貫進路講話」、「授業参観」や「特別支援生徒交流」等、様々な活動をとおして中学生と高校生、中学校教員と高校教員のつながりが保たれています。SCCにおいても、高校生が中学生を指導する場面や、高校教員が中学生に授業をしたり、中学校教員が高校生に授業をしたり、英語検定や漢字検定等を合同で行う等の活動が行われています。



平成18年度（2006年度）からスタートした「広尾町連携型中高一貫教育」も今年で16年目を迎えました。「郷土広尾を愛し、心豊かに学び、新世紀を逞しく、主体的に生きる人を育てる～地域の教育力を結集し、広尾の子どもは広尾で育てる～」を理念に掲げ、多くの町の方々と中高の教職員の協力により、これまで歩んできました。初年度には中学校は4校ありましたが、今では広尾中学校の1校となっています。少子化の流れは勢いを増すばかりです。中高連携を行っている学校でも、地元の中学校からの進学率が低い高校もある中で、広尾町の中学校からは常に70%程の生徒が広尾高校に入学してきています。これはたいへん素晴らしいことです。まさに広尾町の理念が実現されています。

しかし、中学生数の減少により、今年度の1年生は38名の入学により1間口となりました。あと3名入学してくれれば2間口を維持できたところですが、母数が減ったため、70%の入学でも2間口を維持する人数には届きませんでした。今後も中学生数は大幅な増加にはならない見通しですので、高校も1間口校になる可能性があります。

間口が減少しても、教育の質は変わりません。生徒一人一人を大切にする学校の方針も変わりません。私自身も町の高校を卒業しています。自分の将来を考えたとき、都市部の大規模校に比べ、町の小規模校は一人一人の生徒に多くの手をかけてくれます。「鶏口となるも牛後となるなかれ」（大きな集団の末端になるより、小さな集団であってもトップとなる方が良い）ということわざがあります。私は町の高校に行ったからこそ今の自分があると思っています。ぜひ、広尾高校で自分の夢を実現しましょう。

郷土への誇りと挑戦の精神を

広尾町立広尾中学校長 伊澤 理紀



この春の人事異動により広尾中学校に赴任いたしました。広尾に参りましてまだ数ヶ月ということで、本町の中高一貫教育についてまだまだ浅学であり、研究集録などを拝見しながらこれまでの成果について勉強をしているところです。

さて、2006年度からスタートした本町の連携型中高一貫教育は、今年で16年目を迎え、数々の成果を残しながら着実に歩みを進めています。

中高の教職員が相手校にて授業を行ったり、高校生が中学校で授業に参加したり、

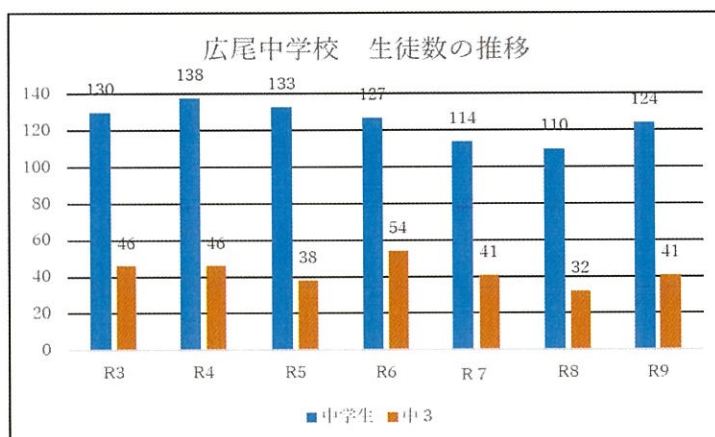
講演したりする SCC（中高一貫校相互乗り入れ授業）。高校生と中学生の部活動・生徒会・ボランティア活動での交流。そして中高の教職員合同での分掌や教科部会など。広尾の子供たち一人ひとりの個性を把握し、きめ細やかな指導を通して知徳体をバランス良く育てています。

一方、課題は生徒数の減少と多様なニーズにどう応えるか？

右のグラフからも分かりますとおり、少子化の波は本町においても例外ではありません。生徒数の減少は、教職員の定数減や部活動選択の幅を狭くします。

課題の二つ目は、働き方改革。教職員の定数減は、相対的に一人ひとりの教職員の負担増となります。これまでの業務を見直し、時に思い切った断捨離も必要と考えます。また一方では、社会の変化に対応した新しい取組も生まれてきます。これまでの一貫教育の取組をベースに一層深化・発展させることも必要であり、「働き方改革」のねらいに叶うことだと考えています。

「広尾の子どもは広尾で育てる」。広尾ならではの歴史、自然、産業、そして学校間や地域との連携を生かして、子供たちに郷土の素晴らしさを再認識させながら、誇りと挑戦の気持ちを育むことが広尾町の中高一貫教育の肝だと考えています。



編集者から

今年度の中高一貫だよりは、例年の高等学校長へのインタビュー形式とは異なり、高等学校長と中学校長に、今後の広尾町の中高一貫教育について、今後の展望と、その中で各校教育が果たす役割を述べていただく形式となりました。新たな視点から中高一貫教育を捉え直す機会として、ご精読いただければ幸いです。

なお、中学校と高校の取り組みにつきましては、本紙のほかに、下記ホームページ・ブログでもご紹介しております。広尾町のページでは、本紙のバックナンバーもご覧いただけます。ぜひご訪問ください。

<http://www.hiroo.hokkaido-c.ed.jp/>（広尾高校）

<https://hiroojhs.blogspot.com/>（広尾中学校）

<https://www.town.hiroo.lg.jp/kyouiku/education/ikkankyoku/>（広尾町）

広尾町中高一貫教育合同部会議開催のご報告



4月28日(水) 広尾中学校体育館において、広尾町中高一貫教育合同部会議を開催いたしました。

(1) 会議の経過

開会挨拶として広尾中学校の伊澤理紀校長、菅原康博教育長にお話を頂いた後、現在の組織体制の見直しや、中高一貫教育の目指す方向性について全体会議で確認をしました。また、今年は新たな試みとして、中学校、高校、教育委員会の職員がそれぞれ自己紹介を行いました。

その後、各教科部会で一年間の連携型教育の進め方を協議したほか、5つの分掌部会に分かれ、教育課程、進路、特別支援などの業務における連携のあり方について話し合いました。

(2) 中高教科部会の様子と実践テーマ

今年度の教科部会は、国語科、社会科、数学科、理科、英語科、保健体育科、家庭科、養護の8部会に分かれて開かれました。

各教科部会では、生徒の興味関心を高め、学力と指導の質が向上できるよう、広尾町の生徒の実態に合わせ、具体的に実践的なプランを話し合いました。

各教科の実践テーマは、以下の通りです。



①『国語科部会』

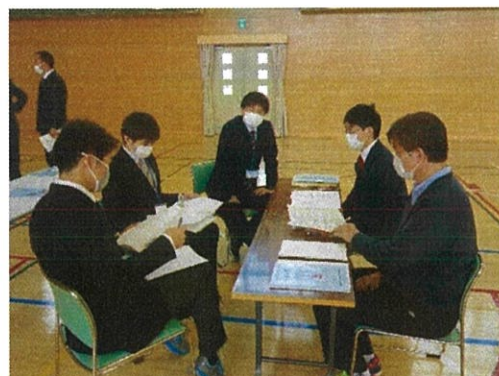
実践テーマ

- 1 生徒が論理的に展開する文章を書けるようになるための作文指導の在り方
- 2 生徒が積極的に日本の伝統的な言語文化を親しむための授業の在り方

②『社会科【地歴・公民】』

実践テーマ

- 1 中高の連携活動を活かした効果的な学習指導の工夫
…基礎・基本の定着を目指した中高相互乗り入れ授業の実践
- 2 中高6年間の学びもれのない、きめ細やかな連携教育を目指した教育課程の研究
…中高基礎学力テストの分析等による、中高6年間を通して重点的に指導すべき学習領域の検討



③『数学部会』

実践テーマ

基礎的・基本的な知識や技能の習得を目指した数学的活動の工夫

- 1 ティーム・ティーチングの充実
- 2 高校チューター学習の研究・実践



④『理科部会』

実践テーマ

- 1 乗り入れ授業や共同実験及び授業参観での生徒の実態の把握を通し、6年間の見通しをもった指導の反映
- 2 基礎・基本の定着の推進とともに、自然科学に対する関心を高めることをねらった実験や観察方法の開発



⑤『英語部会』

実践テーマ

生徒自身が、自分の学習到達度を理解できる
CAN-DO-LIST と Classroom English の
効果的な運用

⑥『保健体育部会』

実践テーマ

- 1 運動の合理的、計画的な実践を通して、
運動の楽しさを深く味わい、生涯にわた
って運動に親しむ資質や能力を高める。
- 2 運動における協働の経験を通して、公正
に取り組む、互いに協力する、自己の責
任を果たす、一人ひとりの違いを大切に
しようとする意欲や態度を育てる。



⑦『家庭科部会』

実践テーマ

- 1 6年間を通して発達段階に応じた系統
的な学習内容により、家庭生活における
基礎的・基本的な知識や技術の定着を図
る指導の実践
- 2 被服および調理実習におけるTTの実
践による生徒個々の能力に応じた個別
指導の充実

⑧『養護部会』

実践テーマ

- 1 生徒・地域の実態や健康課題の共有と対
応策の検討
- 2 生徒・地域の実態をふまえた保健指導・
カウンセリングの充実

(3) 各分掌部会の様子と実践テーマ

①教育課程・学習指導部会

実践テーマ

基礎・基本を定着させ、確かな学力を向上させる。
～6年間の発達段階に応じた学習指導の充実～

②特別活動・生徒指導部会

実践テーマ

- 1 学校行事を共同開催し、中学生、高校生が連帯感を高め、
協力性を学ぶ。
- 2 日常の生徒指導の交流と、中高連携による生徒指導の実践
を行う。



③進路指導・総学部会

- 1 6年間を見通したキャリア教育の実践
- 2 6年間の進路指導を通して、個々の生徒に関する具体的な
情報を連携2校で共有するシステムの構築
- 3 異学年間での合同学習を通じた、表現力や問題解決能力
の伸長
- 4 地域理解を深め、地域に貢献する生徒の育成

④広報啓発部会

実践テーマ

中高一貫教育だよりの発行を通して、生徒・保護者・地域住民へ
の広尾町中高一貫教育の活動状況等について発信する。

⑤特別支援部会

実践テーマ

- 1 中高の連携・協力した指導方法・指導計画の研究
- 2 関係機関と連携した教職員の専門性の向上に関する取り組み

